

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立小山高等学校 (全日制)	校長名	鈴木 広隆
------	----	-----	---------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	地域社会と連携した教育活動を推進する。	・「部活動、生徒会活動、学校行事などを通して、地域との交流が図られている。」生徒、教員 80%以上	(生徒課) 生徒 78.3% 教員 92.0%	A	新型コロナウイルス感染症による行動制限がなくなり、地域行事への参加やボランティア活動等によって、地域貢献する活動が増えた。
ア	生徒の適性や希望に応じたきめ細やかな進路指導を行う。	・「学校は進路情報を提供し、進路説明会を開くなど、計画的な指導を行っている。」生徒、保護者 80%以上 ・「学校の進路指導には満足している。」生徒、保護者 85%以上 ・「(3年生進路決定者のみ) 決定した進路先に満足している。」生徒、保護者 95%以上 ・「(教員のみ) 学びの基礎診断、模試を学習指導や進路指導に有効活用した。」教員 80%以上	(進路課) ・「計画的な指導」項目 生徒 93.6% 保護者 89.3% ・「進路指導に満足」項目 生徒 88.5% 保護者 81.4% ・「進路に満足している」項目 生徒 98.6% 保護者 96.6% ・「学びの基礎診断活用」項目 教員 76.0%	A	・今年度は滯標の内容改訂、PTA総会後の3年生保護者対象の進路講演会や進路情報誌の配布、夏の三者面談時に3年生保護者全員へ進路情報誌の配布など、昨年度よりも情報提供を行った。来年度は全学年新課程になるので、情報提供については、より意識して行っていく必要がある。また、保護者対象の進路説明会を複数回開催するなどの検討もしたい。 ・模試分析を行うことが目的になってしまい、指導に活用するところまでやりきれなかった。来年度から新課程になることもあり、教科横断的な意見交換の場があると良い。
イ	主体的・対話的で深い学びを推進する。	・「先生方は、わかりやすく学力がつく授業を行っている。」生徒 90%以上 ・「生徒は、授業や課題に主体的に取り組んでいる」生徒、保護者、教員 80%以上 ・「(教員のみ) 総合的な探究の時間の趣旨を理解し、指導することができる。」教員 80%以上	(教務課) ・「学力がつく授業」項目 生徒 84.7% ・「授業や課題に主体的」項目 生徒 89.5% 保護者 78.9% 教員 60.0% (総探担当) ・「総探の趣旨理解と指導」項目 教員 60.0%	B	・「学力がつく授業」項目が目標値に達しなかったことや、教員相互の授業参観数が少なくなったことから、学校全体で授業力向上を図る必要がある。 ・「授業や課題に主体的」項目では、教員の評価が低かった。授業への取り組みや課題提出等について、さらに向上するよう指導していきたい。 ・総探について、教員に向けて指導方法などについて情報を提供することができなかった。指導計画について提示し、教員に年間を通じた指導イメージをもってもらえるよう制度設計をわかりやすくするようにしたい。

様式第3号

イ	教育DXを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、ICTの活用等、授業改善に積極的に取り組んでいる。」生徒、保護者、教員85%以上 	(教務課) 生徒 89.1% 保護者 93.0% 教員 96.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用は飛躍的に進んだ。今後は、学習面や諸連絡において、さらに効果的にICTを活用する方法を検討したい。
ウ	生徒の主体的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒は、生徒会活動や学校行事に主体的に取り組んでいる。」生徒、教員90%以上 「筲陵祭、修学旅行、クロスカントリーなどの学校行事は充実している。」生徒、保護者、教員90%以上 「部活動はさかんで充実している。」生徒、保護者、教員90%以上 	(生徒課) ・「特別活動に主体的」項目 生徒 93.6% 教員 88.0% ・「学校行事が充実」項目 生徒 94.9% 保護者 96.7% 教員 100.0% ・「部活動が充実」項目 生徒 84.7% 保護者 81.9% 教員 88.0%	A	生徒の数値の高さに表れているように、充実した活動ができた。リーダー研修会の充実も含め、委員会や行事でより多くの提案を生徒から出させて実行させる雰囲気や環境づくりについても考えていきたい。
ウ	人権意識を涵養し、成長を促す生徒指導を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 「小山高生は元気な挨拶ができる。」生徒、保護者、教員90%以上 「小山高生は正しい身なりや服装が習慣化できている。」生徒、保護者、教員90%以上 	(生徒課) ・「元気な挨拶」項目 生徒 82.4% 保護者 85.9% 教員 80.0% ・「正しい身なりや服装」項目 生徒 99.0% 保護者 98.9% 教員 92.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶運動を行っているが挨拶を自ら進んで行う生徒が減ってきている。生徒からの挨拶に対して、教員自身も挨拶を返すようにしたい。 多くの生徒が制服を正しく着こなすことができていた。
エ	生徒が安全・安心に登校できる教育環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 「小山高生は安全・安心な学校生活をおくることができている。」生徒、保護者、教員95%以上 「小山高生は交通法規を守り、事故防止に努めている。」生徒、教員90%以上 「友人や先生など悩みを相談できる人がいる。」生徒90%以上 	(生徒課・管理職) ・「安全・安心な学校生活」項目 生徒 98.7% 保護者 96.7% 教員 92.0% ・「交通法規遵守」項目 生徒 91.1% 教員 84.0% ・「悩みを相談できる」項目 生徒 85.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備については不具合箇所等の修繕、整備を迅速に行った。今後は、校内の老朽箇所等を中心に、環境改善整備を計画に行っていく。 ロッカーの施錠が徹底できていない生徒や教室に私物を置いたままで帰宅する生徒がいるため指導をしていく必要がある。 登下校時の自損事故が数件あった。また、イヤホンを着けながら自転車に乗っている生徒など、黄色切符を切られた生徒も多数いた。 悩みを相談できない生徒が増加傾向にある。相談するという意識がそもそもない場合があるため、相談室だより等を活用し、

様式第3号

					意識を変えていきたい。
エ	働きやすい職場環境と法令遵守の姿勢を確立する。	・「(教員のみ) 教職員間のコミュニケーションは活発であり、チームとして機能している。」教員 80%以上 ・「(教員のみ) お互いのワークライフバランスを尊重しつつ、教育活動に協働して取り組んだ。」教員 80%以上	(管理職) ・「コミュニケーション」項目 教員 88.0% ・「ワークライフバランス」項目 教員 72.0%	B	・教職員間のコミュニケーションが良好であるものの、互いのワークライフバランスの尊重について、目標値に届かなかった。今後も家庭と仕事の両立しやすい職場環境を整えていきたい。
エ	地域に開かれた学校を目指して情報発信を行う。	・「保護者、中学生、地域に学校の魅力が伝えられるような情報発信をしている。」80%以上	(教務課・管理職) 生徒 82.7% 保護者 77.0% 教員 84.0%	A	・Instagram の発信、小山高だよりは充実している。また、学校案内や学校広報のプレゼンテーションを昨年に引き続き工夫した。 ・校外での地域貢献においても、本校の魅力を発信できている。

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立小山高等学校定時制	校長名	鈴木 広隆
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自立の心を持った生徒を育てる生活指導とすべてに優先する安心安全な学校作り	登下校を含む学校生活における重大事故発生件数0件。	重大事故発生0件。 交通事故発生0件。	A	交通講話（御殿場警察署）二輪車グッドマナー教室（御殿場自校）を通して、交通安全の意識を高めることができた。年間を通して登校指導を実施し、生徒への啓発に努めた。免許取得者の増加をふまえ、交通法規遵守を徹底する必要がある。
		いじめ・恐喝・窃盗の発生件数0件。	目標に係る生徒指導1件。	B	多くの生徒が規範意識を持ち、落ち着いた学校生活を送ることができた。中学校時代の不登校等、集団生活の経験が少ない生徒について、コミュニケーションスキルを向上させ、生徒間トラブル・問題行動の防止に努めたい。
		「授業・生活アンケート」の主体的行動や生活態度の項目において、肯定的自己評価90%以上。	肯定的な自己評価88.1%。授業態度について、離席をしない（前年比12%減）、飲食をしない（8%減）、私語をしない（10%減）の項目が低評価となった。	B	基本的な生活習慣の確立については個人差が大きい。課題を有する生徒については、情報交換会等で個々の状況を把握し、改善に繋げたい。欠席・遅刻の連絡徹底、安易な欠席の防止、授業規律向上・確立は、すべての生徒に継続的に指導する必要がある。
イ	基礎基本の定着と自ら学ぶ姿勢の育成	授業アンケート評価10項目で肯定的評価全て95%以上。	10項目すべてにおいて95%以上であった。 （肯定的評価の10項目平均97%）	A	全体的に落ち着いた雰囲気の中で、集中して授業を受けている。基礎基本の定着という観点では、欠点を取ってしまう生徒への継続的支援を考えなければいけない。
		「基礎力診断テスト」の正解率60%を目指す。	基礎力診断テスト正解率60%を目指した生徒、100%。	判定不能	判定が困難な成果目標設定であったため、次年度目標設定時、要検討。今後、生徒のテストに向けた取り組みを判断材料とできるような目標設定にする必要がある。

ウ	勤労観及び自ら進路を切り拓く力の育成	進路未決定者を0人にする。	・卒業予定者2名中、進路決定者は、2名である。	A	・低学年の頃より、きめ細かな面談を実施した結果、数値的目標は達成した。 ・生徒本人が職種や業種について明確な意思を示せず、履歴書・面接指導が十分とはいえなかったため、職業観・勤労観の育成についての課題を考える必要がある。
		進路行事、各学期1回実施	・外部機関と連携し、進路行事を各学期1回実施した。(3学期は3月18日に実施予定) ・地元企業の経営者を講師として招き、「企業人講話」を実施した。	A	・進路行事を通して、進路について考える動機付けとなった。 ・地元企業の経営者の話を通して、企業はどのような人材を求めているのかが具体化され、生徒は自分のどんな強みをどのような形で生かす場があるのか、と真剣に考えるきっかけができた。
エ	家庭・職場・地域からの理解及び協力を得た生徒支援体制の充実	HPを見た家庭の割合60%以上。	判定不能	B	・令和5年度はニュース記事の更新28件(※昨年度3件)。 ・生徒への緊急時等の連絡手段はスマートフォン等の電話の他、39mail、Google クラスルームなどを場面により使い分けている。 ・ホームページには各種書式(感染症罹患の際の観察カード等)がアップされており、今年度もインフルエンザ、コロナに感染した生徒の利用があった。 ・今後も小山高校定時制の情報発信手段の一つとして、更新の頻度を保ちたい。
		HPを見た教員の割合100%。	100%を達成	A	・令和5年度はニュース記事の更新28件となった(※昨年度3件)。 ・次年度から県の方針でホームページがより見やすいものとなる。よりよいものにしていきたい。地域の方などにも小山高校定時制を積極的にアピールしていくものとした。

オ	組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制の推進	研修内容は適切だったか、意思の共有ができたか、について職員アンケートを行い、肯定的な評価が90%以上である。	アンケートを実施した結果、肯定的評価が90%以上であった。	B	日頃から生徒等の情報共有や、意見交換ができていた。アンケートの結果では肯定的評価が多かったが、つながりのある研修の計画を立てる必要があると感じた。年次研修や定期訪問の校内研修の内容を踏まえた研修などつながりのある研修の計画をしていきたい。
カ	業務改善による教員の豊かな教員人生の確保	「児童生徒と向き合う時間」や「指導準備時間」が増えていると感じる教員の割合100%	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と向き合う時間が増えた：87.5% ・指導準備時間が増えた：75.0% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内での業務分担の見直し等を継続して行う。 ・分掌業務以外にも個々の教員の抱える業務は多岐に渡る。継続して、整理していきたい。
		職員の年休等休暇取得率前年度比10%増。	<ul style="list-style-type: none"> ・年休等のお休みを取りやすい雰囲気職場である、と考える教員の割合：87.5% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに教員の入れ替わりもあり、単純比較ができない目標であったので、職場の雰囲気自体が休みを取りやすいものかを尋ねるアンケートとした。 ・年間通じて、積極的な年休取得を呼びかけた。定時制という特殊な勤務時間であること。個別であったり、急な対応が必要な生徒が大半であることなどから、年休を取りづらい実態があることも痛感した。 ・今後も、継続的な声掛けや、長期休業中の休みの取得など勧め、継続的に雰囲気の涵養に努めたい。